

ASEAN 大使通信

第 28 回 原則と実益の共有

2025 年（令和 7 年）3 月 26 日



日 ASEAN フォーラム（2025 年 3 月 5 日、於軽井沢）

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。当地では3月のラマダン（断食月）がまもなく終わり、いよいよレバラン（断食明け大祭）連休に入るところです。私は今月の前半は日本に長期出張し、後半はジャカルタで様々な行事や会合に出席しました。幅広い分野での日 ASEAN 協力を更に具体化するとともに、今年の一連の ASEAN 関連会議に向けての準備を進めることができましたと思います。

日本では、軽井沢で日 ASEAN フォーラム（次官級会合）、東京でアジア大洋州大使会議に参加しました。この機会に、日 ASEAN 協力を携わる様々な関係者とお会いして、ネットワークを一層拡大できたことも大きな成果でした。ジャカルタに戻ってからは、アタッチメント・プログラム開始式への出席、カオ・キムホン ASEAN 事務総長との会談や大学でのオンライン講演がありました。

今、世界が大きく動く中で、日本と ASEAN がさらに協力を進めるためには、価値・原則と目に見える実益の双方を共有し、推進することが重要と感じました。今回の ASEAN 大使通信では、今月行われた一連の会議や行事とともに、日 ASEAN 間の原則と実益の共有について一緒に考えていきたいと思います。



日 ASEAN フォーラム後のエクスカーション
(2025 年 3 月 5 日、於軽井沢・ハルニレテラス)

●日 ASEAN フォーラム

3 月 4 日夜から 5 日にかけて、軽井沢で[日 ASEAN フォーラム](#)が開催されました。日 ASEAN フォーラムは、1977 年以来、日本と ASEAN の次官級の高級実務者（SOM リーダー）の間で、日本と ASEAN の協力について協議するべく、原則年 1 回開催されてきているもので、今回で 40 回目を迎えました。

日本の鯨博行外務審議官と、ASEAN の対日調整国を務めるシンガポールのアルバート・チュア外務次官が共同議長を務め、ASEAN 各国と ASEAN 事務局から代表者が出席、東ティモールがオブザーバー出席し、私も参加しました。

今回のフォーラムでは、2023 年の日 ASEAN 共同ビジョン・ステートメントと実施計画に沿った具体的協力の進捗や今後のさらなる関係強化、そして地域・国際情勢について[意見交換](#)を行いました。軽井沢では会議前日に大雪が降り、東南アジアではなかなか見られない雪に囲まれての会議となりました。終了後は自由参加の[エクスカーション](#)も行われて親交を深めました。



ビジネスと人権に関する意見交換会
(2025 年 3 月 7 日、於法務省法務総合研究所)

●アジア大洋州大使会議と日 ASEAN 協力関係者との会合

翌週の 3 月 10 日～11 日、東京で[アジア大洋州大使会議](#)が開催されました。外務大臣はじめ政務三役、アジア大洋州・北米地域の大使、外務省関係部局の幹部他が出席し、日本のアジア太平洋地域外交について幅広く議論を行いました。

[岩屋毅外務大臣の訓示](#)では、国際秩序が揺らぎ、安全保障環境も厳しさを増す中、我が国は「対話と協調の外交」を戦略的かつ精力的に進めていく必要があり、日米同盟の強化に加え、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けた同盟国・同志国との連携、グローバル・サウスとの連携を進めていくことが重要との点が強調されました。

今回帰国した機会に、日 ASEAN 協力を携わる幅広い関係者との意見交換も行いました。3 月 7 日には法務省法務総合研究所主催の「[ビジネスと人権に関する意見交換会](#)」で[プレゼンテーション](#)を行い、幅広い関係機関からの報告も受けられたことは貴重な経験でした。ジャカルタ帰任後も、[ビジネスと人権の関係機関との意見交換](#)を公邸で行い、双方の関係者の連絡グループを作りました。



サステナビリティ経営セミナー
(2025 年 3 月 12 日、於東京・大手町)

●日 ASEAN ビジネス協力の推進

3 月 12 日には、KPMG FAS と西村あさひ法律事務所が共催する「[東南アジアの最新動向を踏まえた『攻めのサステナビリティ経営』～社会課題を起点とした事業開発の進め方](#)」という半日のセミナーで、[基調講演](#)を行いました。

このセミナーは、①成長する東南アジア、②サステナビリティというビジネス機会、③攻めの経営という3つの切り口から、社会課題を起点とする新規事業開発の取組を後押しするものでした。100 名以上が出席する盛況で、企業関係者の熱意を感じました。[「日 ASEAN 経済共創ビジョン」](#)も今や実践段階です。

農水省、厚労省、法務省、環境省、JICA との意見交換では、日本での最新の取組について伺うとともに、ジャカルタの現地から見た日 ASEAN 協力の様々な可能性を伝えることができました。また、長年 ASEAN を研究している有識者との意見交換も大変有意義で、今後の日 ASEAN 知的交流の推進についてのアイデアもいただきました。しっかりとフォローアップしたいと思います。



アタッチメント・プログラム開始式典
(2025 年 3 月 17 日、於 ASEAN 本部事務局)

●アタッチメント・プログラム開始式典

ジャカルタ帰任後の 3 月 17 日には、ASEAN 本部事務局での[アタッチメント・プログラムの開始式典](#)に出席しました。カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV）及び東ティモールからの計 15 名の研修員の着任を祝しました。式典では[カオ・キムホン ASEAN 事務総長](#)と[私](#)から歓迎の挨拶を行い、ASEAN 各国の常駐代表をはじめ多くの代表部員・ASEAN 事務局員が出席しました。

[アタッチメント・プログラム](#)は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV）各国の若手政府職員を ASEAN 事務局に 1 年間派遣し、参加者の行政実務能力の向上を目指すとともに、ASEAN 域内格差を是正することを目的とし、これまで多くの優秀な人材を輩出してきました。日本政府はこのプログラムを日 ASEAN 統合基金（JAIF）で支援しています。今回から、東ティモールの若手政府職員が新たにプログラムに加わるようになりました。

今回派遣された研修員の方々が、ASEAN の取組や ASEAN 共同体構築へのさらなる推進に貢献することを期待しています。



カオ・キムホン ASEAN 事務総長との会談
(2025 年 3 月 17 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供)

●ASEAN 事務総長との会談

同 17 日午後には、[カオ・キムホン ASEAN 事務総長を表敬](#)して意見交換を行いました。

私からは、ミャンマー情勢について、日本が引き続き「5 つのコンセンサス」の実施を含む ASEAN の取組を支援し、人道支援を含め事態改善に取り組んでいくと説明しました。そして、[AHA センターを通じたミャンマーに対する人道支援](#)のために、同 17 日に日 ASEAN 統合基金（JAIF）への新たな拠出を行った旨を伝達しました。

引き続き、DX や GX、インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）の主流化・実施のための協力、さらに来月から開催予定の大阪・関西万博への ASEAN パビリオンの出展など、日 ASEAN 協力のさらなる推進について意見交換を行い、引き続き緊密に連携していくことで一致しました。

今回の意見交換は以前と異なり[机を挟んでの対面式](#)で、ASEAN 事務局側から多数の職員が同席し、約 1 時間にわたる包括的なものでした。今後の ASEAN 関連外相・首脳会議に向けて、協力の具体化を進めていきたいと思ひます。



ガジャマダ大学 ASEAN 研究センター主催オンライン講演会
(2025 年 3 月 21 日)

●原則と実益の共有

3 月 21 日には、古都ジョグジャカルタの名門大学である[ガジャマダ大学の ASEAN 研究センター主催のオンライン講演会](#)で、「インド太平洋における日本と ASEAN の連携 (Collaborative Roles between Japan and ASEAN in Navigating Indo-Pacific)」というテーマで[講演](#)を行い、80 名以上が参加しました。同じテーマの[エッセイコンテスト](#)の表彰式も併せて開催されました。

日 ASEAN フォーラムから大学主催のオンライン講演会までの今月の一連の行事を通じて、日 ASEAN 協力では「価値・原則の共有」と「目に見える実益の共有」の双方が重要と感じています。

国際社会が大きく揺れ動いている今だからこそ、自由や法の支配を擁護し、多様性、包摂性、開放性を尊重していくことが重要です。AOIP が、日本の提唱する「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」と共通する原則を掲げていることを心強く思います。それと同時に、GX、DX をはじめとする新たな分野での目に見える協力を推進していくことも、活力ある未来を共に作っていく上で不可欠です。その双方を同時に実現すべく、幅広い分野の皆様と日 ASEAN 協力に取り組んでいきたいと思ひます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦